

第10節 周辺地域の環境保全に関する計画

【檜下宿】

檜下宿の文化的景観は、自然美や歴史が高く評価され、山形県の優れた景観「やまがた景観物語」のビューポイントに選定されている。

自然と調和した檜下宿の景観は、史跡の大きな魅力であり、後世に正しく伝承すべき地域の財産である。

檜下宿では、地域住民が中心になって景観整備や環境保全活動が積極的に行われている。宿場としての価値をより一層高めるため、今後も地域及び関係団体と合意形成を図りながら、史跡や景観の保全に努める。



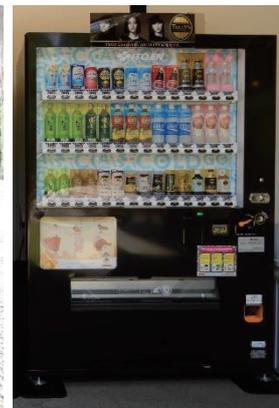
図 348 大黒屋トイレ表示



図 349 彩色された交通標識支柱（青森県）



図 350 彩色された自動販売機（青森県）



【金山越】

金山越の景観を形成する要素である樹林は、景観の魅力向上を図るため、適切に管理するとともに、景観や眺望を阻害している支障木等については、伐採や枝払い等、必要な整備を実施する。

平成26年7月に史跡23箇所で大規模な被害が生じた災害の要因は、大雨に伴い倒木類が金山川に流入して流路をふさぎ、せき止められた河川水が街道の路面や法肩、溪岸を浸食したことによると災害復旧検討委員会（平成26～27年度）では結論づけている。

金山では、倒木やかかり木が多く確認されているが（図351）、山中には重機類を搬入することができないため、倒木類を搬出することはできない。しかし、史跡周辺の環境や景観の保全を図るため、市民史跡保全活動の際に倒木類を人力で運搬できるサイズに玉切りにして現地（史跡外）に整然と集積している。

なお、重機を搬入できる範囲では、直径20cm位までの幹や枝はチップパー粉砕機でチップ化し（図357）、ベンチや丸太イスに適した木材については現地で再利用する。



図 351 金山街道沿いの倒木



図 352 金山のかかり木



図 353 かかり木と羽州街道



図 354 倒木の移動（市民史跡保全活動）



図 355 倒木の移動（市民史跡保全活動）



図 356 倒木は人力で運搬可能な大きさに玉切りにして集積（市民史跡保全活動）



図 357 玉切りにした細い幹や枝は粉碎機でチップ化（市民史跡保全活動）



第11節 地域全体における関連文化財等との有機的な整備活用に関する計画

檜下宿及び金山越では、史跡指定地外にも馬頭塔や湯殿山碑等の石碑や、宝暦年間の村絵図に示された脇道など、宿場や街道に関連する貴重な遺構が数多く存在している。

また、自然豊かで四季折々に確かな季節の移り変わりを楽しむことができることから、関連する文化財の分布確認やリストアップを行い、史跡探訪者が回遊できるようにマップや案内図の拡充を図る。

さらに、羽州街道でつながる上山宿の上山城や武家屋敷等とは、これまで同様、連携を図りながら、企画展や学習会の開催等を通して相互に回遊性を高める取り組みを実施するとともに今後は七ヶ宿（宮城県）との連携も検討する。

【檜下宿】

檜下宿では、日当たりの良い斜面に春の訪れを告げるフクジュソウやカタクリが群生している。また、宿尻の羽州街道沿いにあるハス池では、ハスの花が訪れる人の心を癒すなど、史跡の適正な保全は、植物の生育環境の保全にも有益である。浄休寺境内のイチョウは、檜下宿のシンボルであり「黄葉したイチョウの葉がすべて落ちると檜下では雪が降る」と地元では言われている。史跡の適正な保全と植物の生育環境の保全は一体的に実施する。



図 358 浄休寺のイチョウは檜下宿のシンボル



図 359 馬頭観世音（新町）



図 360 ハス（街道沿い／宿尻）



図 361 カタクリ（上町）



図 362 フクジュソウ（金山川左岸／新町）

【金山越】

金山越の羽州街道沿いには、縁石や積み石、地蔵尊など街道に関連する貴重な遺構が多く現存している（図363～図368）。

また、道中記に「鳥海山ハルカニ見ユル」と記された金山峠からの眺望景観は、今後も適正に保存管理していかなければならない貴重な資源である（図373～図375）。

金山越も檜下宿同様、自然が豊かで、街道沿いの親水空間である金山川の清流にはヤマメやサワガニが生息し、沿道には四季折々に群生する多様な植物を目にすることができる（図369～図372）。



図 363 街道沿いの積み石（第 6 木橋北側）



図 364 街道沿いの縁石（第 1 木橋北側）



図 365 街道沿いの馬頭塔（第 5 木橋南側）



図 366 湯殿山碑、八日溝供養塔



図 367 積み石堤（第 5 木橋南側）



図 368 山神碑（金山宿）



図 369 ヤマメ (金山川)



図 370 サワガニ (金山川)



図 371 ニリンソウ (金山)



図 372 群生するガクアジサイ (金山)



図 373 金山峠からの眺望景観



図 374 金山峠から村山葉山 (右) とその背後に見える鳥海山の遠望

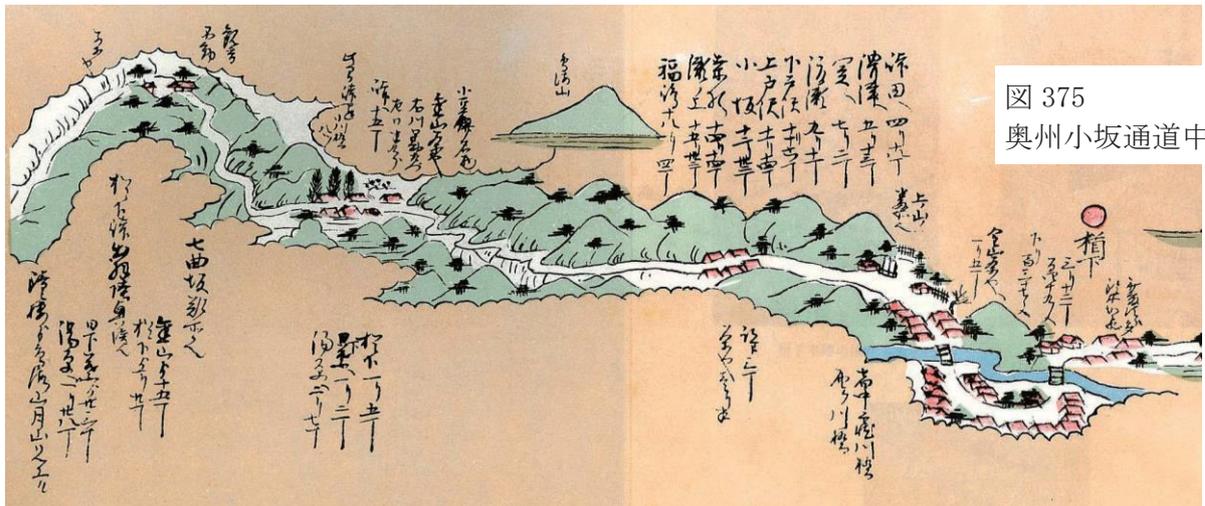


図 375
奥州小坂通道中絵図

第12節 調査等に関する計画

整備に当たっては環境調査等を実施し、各分野の専門家の助言や指導のもと、学術的な検討を踏まえて実施する。

【柵下宿】

史跡外にある街道及び宿場に関連する遺構（石積み、石畳、水路等）の確認調査は継続して実施し、史跡の追加指定を検討する（図376、図379～図381）。

アーチ状の新橋及び硯橋（いずれも石橋）については複数のクラックが確認されており、寒さが厳しい冬季になるとアーチ部分の石の隙間に多くの氷柱ができることから、クラックゲージを用いて変位観測を実施する（図377／図378）。

また、世帯主の代替わりによる個人所有の史料散逸を避けるため住民聞き取り等を継続する。



図 376 野面石積み（上町）



図 377 厳冬期にできる氷柱（新橋）



図 378 石橋のクラック（新橋）

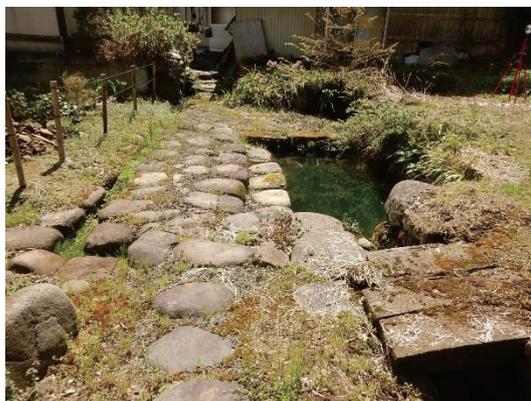


図 379 石畳と水路（上町）



図 380 石積みと水路（新町）



図 381 街道法面の野面石積み（宿尻）



図 382 石橋アーチ部の墨書（新橋）

【金山越】

羽州街道金山越の一里塚を確認するため、市民史跡保全活動の際に当時の測量にならって間縄を用いて街道の距離の実測調査体験をこれまで実施している。史跡探訪者が位置及び距離を確認できるよう、1町毎に町石の設置を検討するため、今後も街道の実測調査を継続する。

史跡に流入する雨水や湧水により路面の洗掘や流出が複数箇所を確認されている。環境改善に必要な素掘り側溝（排水路の確保）等の整備を検討するため、史跡に影響を与えないように調査を実施する。

また、樹木の分布状況や植生・樹勢等の調査を実施するとともに、現地の街道沿いにあるカツラの大径木などは、年輪分析等により知見を得られる貴重な検証資料であるため、倒木時は保管して調査に活用する。

さらに、史跡外にある街道及び宿場に関連する遺構（石積み、石畳、水路等）の確認調査を継続し、史跡の追加指定を検討する（図384／図385）。



図 383 街道沿いのカツラ（大径木）
第8木橋北側



図 384 街道沿いの除草による石積みの検出（第6木橋北側／市民史跡保全活動）



図 385 間縄による街道実測と一里塚の確認調査（いずれも市民史跡保全活動）



図 386 「お国替え絵巻（山田音羽子）」の挿図「金山峠の絵」に類似する岩山と広葉樹（災害復旧 No. 10 地点南側）